

学校概要

創立 65 周年	学校長 渡辺 辰哉	副校長 板橋 典子	学期 2 学期制	児童・生徒数 799 人
学級数 一般級: 24 個別支援級: 2		主な関係校: 大綱中学校 上の宮中学校 篠原中学校		

学校教育目標

- 意欲的に問題解決する子を育てます。(知)
- 自分や相手を大切にすることを育てます。(徳)
- 心と体の健康な子を育てます。(体)
- まちを愛する子を育てます。(公)
- 違いを認め合える子を育てます。(開)

学校の特徴

□JR・東横線の菊名駅から徒歩10分の小高い丘の上に立地している。学区の中を綱島街道が通っており、境には環状2号が通っている。学区の3分の2が港北区、3分の1が鶴見区と行政区が2区である。
 □開校するにあたって、地域に住んでいる方々が土地を提供し自分たちで整地したとのこと。その際、敷地の中に生活道路を通すことが条件となった。このこともあり、保護者・地域からの期待が厚く、協力的である。
 ■習い事や塾に通っている児童が多い。そのこともあり、学習状況調査の結果からは平均値は上回っているが、格差の開きが見られる。本物に触れる経験が少ない。体力テストの結果からは、学校として体力向上に一層取り組む必要がある。

学校経営中期取組目標

- 「こころ ゆたかな きくなの子」の育成を目指して、豊かにかかわり 心をつなぐ学校にします。
- ・教職員の学びあいを大切に、個々の能力とチーム力の発揮ができる運営組織の確立を目指します。
- ・心身共に健康な生活習慣の確立と体力向上に向けた取り組みを推進します。
- ・豊かな人間性の育成のため、縦割りペア活動の充実を図り教育ボランティアの活用を推進します。
- ・地域とのつながりを意識し、様々な体験を通して、自分の住んでいるまちを愛する心を育てます。

小中一貫教育の取組

大綱中	ブロック	大綱中学校・大綱小学校・大豆戸小学校・太尾小学校
9年間で育てる子ども像	○主体的に学習に取り組む子ども ○道徳的に自立した子ども ○健康・安全の意識を持つたくましい子ども	
自校の具体的取組	○小中間の教職員の交流、相互理解に努める。 ○合同研修会等を通じた児童・生徒指導上の課題解決。 ○合同授業研究会等を通じた授業改善、授業力の向上。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	自ら課題を設定できる授業、活用力を問う授業を展開し、課題解決に向け、発言力、表現力が高まる支援を通して、よりよい解決を目指そうとする子を育てる。	①全学年・学級で「学習の菊名のきまり」を徹底し、基礎・基本の定着を目指す。②重点研の研究テーマを「ともにかかわり合いながら自分を見つめ自分を生き生きと表現していく子をめざして」と設定し、国語科を中心に、主体的に問題解決する中で、発言力・表現力が高まり、自分の言葉で表現する活動を設定する。
豊かな心	一人ひとりが大切な存在であることを繰り返し指導し、自分に対する自信をもたせ、同時に周囲の人への思いやりの心や社会性を育てる。	①ペア学年を決めふれあい活動、ふれあい給食、ふれあい遠足を充実させ、学級集団だけではなく異年令同士のつながりを築くようにする。②読み聞かせ、図書ポラさんとふれ合う活動を金曜日の朝の時間を使って行って③年間を通してあいさつ運動に取り組み、中学校との連携を図る。人権週間では外部の方による出前授業を実施する。
健やかな体	健康な生活習慣の確立と体力向上に向けた取り組みを推進し、一校一実践運動を通して体力の向上を図る。	①ヘルスプロモーション考え方を重視し、保健学習等を通して自己の体調・健康管理能力を育てていく。②一校一実践運動「一つでも運動をしよう」を取り上げ、体力アッププロジェクト(投力・ドッジボール大会・長縄大会を通して体力の向上に励む)。③栄養士と連携しながら全学級で食育に関する授業を行う。
児童生徒指導	日常的にコミュニケーションを大切にしながら児童理解に努め、児童指導に関する情報の共有化を図り、子どもの規範意識を育む体制を確立する。	①全学年・学級で「学校生活の菊名スタンダード」を全教職員が同じ方向で指導にあたる。②職員会議後半に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。③専任を中心に児童の実態を日々つかみ、児童指導上の諸問題についての情報を集約し、スクールカウンセラー・スクールサポーターの積極的な学校への関わりをすすめる。
特別支援教育	特別支援コーディネーターを中心として校内研修の実施、特別支援教育推進のための関係機関との連携を進める。	①コーディネーターを中心に特別支援研修を年間4回行い、配慮が必要な児童の情報を共有すると共に、合理的配慮に関する研修を行う。②地域療育センター、リハセンターと連絡を取り合い定期的に児童の状況を見ていくと共に職員の研修を行う。個別の教育支援計画、アセスメントシートを活用し学校として統一した支援や方針をだす。
教育環境整備	施設・設備の安全管理のための点検を実施し、必要な改善を図る。校内の環境美化推進に取り組み快適な学校生活を送れるように努める。	①職員室のパソコンを利用し、紙ベースではなくPC上で情報の共有を図る。次年度は空き教室がない状況となるので、今年度中に普通教室に切り替える整備を行う。校内の掲示板を各学年ごとに場所を作り、児童の委員会を活用して環境整備を進める。PC室を普通教室にするため、PCを図書館準備室に設置する。
人材育成・組織運営	メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修を計画的にすすめる。経験豊富な教職員が指導・助言に関わる体制をつくる。	①メンターチームを組織し、複数回の研修・授業の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに、事務処理の効率化を図る。③定期的に、教務会を行い、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。